

たんちょう

JAくしろ丹頂
広報誌

vol.101
2016.2

くしろ丹頂

平成28年度 営農計画樹立協議



鶴居

C O N T E N T S

- 鶴居村タンチョウフェスティバル ————— 1
- 営農計画樹立協議終了 ————— 2
- JA青年部鶴居支部学習会
くしろ冬まつりで根釧牛乳をPR !!
音別支所に喫煙室設置 ————— 3
- 第28回JA北海道大会「パネリストからの提言」 ——— 4
- 農林水産省からのお知らせ ————— 5
- 理事会報告 / 生乳生産実績 / 退職者 ————— 6
- 普及センターだより ————— 7



JA青年部鶴居支部学習会

鶴居村タンチョウフェスティバル 開催される!!

「豚汁販売」JA女性部鶴居支部・「根釧牛乳の無料試飲」JA青年部鶴居支部

二月七日、鶴居村総合センター前庭野外ステージで、第二十九回鶴居村タンチョウフェスティバルが開催されました。

JA青年部鶴居支部は、消費拡大で根釧牛乳の無料試飲を行ない、多くの来場者で賑わいました。

松下雅幸副支部長は、「寒



ホットミルクで体もポカポカ!!

い中、ホットミルクは大好評で、大人から子供までたくさんの皆様に地元産の牛乳を飲んでもらうため、部員達で協力して活動しております。」

JA女性部鶴居支部は、「豚汁」を販売し、松下いち子支部長は、



地元産の野菜を使った豚汁

「地元産の野菜を使った豚汁は美味しく出来上がり大好評です。」と話して頂きました。

会場では、タンチョウ鳴き声コンテストや雪中宝探しなど数々のイベントが行なわれ大変盛況でした。



営農計画樹立協議 終了

～更なる経営基盤の強化を!!～

1月18日から1月末にかけ、四地区で平成28年度営農計画樹立協議が行なわれました。

白 糠



平成二十七年度、北海道の酪農畜産経営を取り巻く環境は、TPP協定の大筋合意により、一部の関税撤廃や引下げ、輸入枠の拡大など、合意の内容は、今後の酪農畜産業界に大きな影響が予想されます。

音 別



また、担い手不足や生産コストの上昇、酪農・畜産農家戸数の減少、乳用・肉用牛頭数の減少等生産基盤の維持・強化が急務となっております。北海道の生乳生産は、平成二十八年度より開始される「北海道生乳生産基盤 安定供給強化対策」に基づき、増産型の生産

幌 呂



体制を目指した生乳生産計画となります。新年度におかれましては、組合員の皆様方が中期的展望に立った経営戦略のもと、家族・社員総意により目標達成に向け、責任ある計画の遂行をご期待致します。

J A 青年部鶴居支部学習会 開催

二月四日、本所で J A 青年部鶴居支部による学習会が開催されました。

講師に北海道農協青年部協議会 斉藤和弘会長を迎え、「オランダ・ドイツ視察研修の報告と感想」をテーマに報告され

ました。

J A 全青協主催による今回の視察では、オランダとドイツの牧場や搾乳ロボット等を視察し、各国の酪農に対する取り組みや考え方などについて説明を受けました。



説明する斉藤和弘氏

「くしろ冬まつり」で根釧牛乳をPR!! 釧路地区農協青年部協議会



根釧牛乳を配布する石黒隆行部長

二月六、七日の二日間、釧路市観光国際交流センターで「くしろ冬まつり」が開催されました。会場は、多くの来場者が集まる中、ステージイベントや食品まつり、消費者まつりなど様々な催しが行なわれました。「釧路の牛乳をモーツと飲もう

!!」と銘打ち、根釧牛乳の無料試飲を行いました。当 J A 青年部の石黒隆行部長は、「消費者の方々と接しながら牛乳の P R 活動をする事は大切だと感じており、今後も積極的に続けていきたいです。」と話して頂きました。

音別支所に喫煙室を設置しました!!

1月より、音別支所営農課横に、喫煙室を設置し完全分煙化しました。今後も快適な職場環境作りを目指して参ります。



第28回JA北海道大会「パネリストからの提言」

第28回JA北海道大会 パネルディスカッション

農業価値の向上をけん引する北海道農業
若者がほしがる我が国農業

北海道経済連合会 名誉会長 近藤龍夫氏

JA北海道大会で開催したパネルディスカッションでパネリストの皆さんから提言頂きました「北海道農業とJAグループに期待すること」をシリーズで紹介します。



近藤龍夫氏
北海道経済連合会 名誉会長
北海道観光振興機構 会長

第1回は、近藤龍夫氏の提言を紹介します。

北海道が率先して国民への農業価値理解活動を

農業価値とは農業の存在価値的な意味合いと理解して頂きたい。

世界的には、『国土を確保して守ること』、『エネルギーを確保すること』、『農業を主とする食を守ること』、この3つが国として最低限やらなければならぬこと。

国家的に食・農業を価値ある重要なことと位置付けている国がたくさんある。食・農業を大事にしなければならない。しかし、わが国では、農業の重要性、農業価値が忘れられてきた感がある。

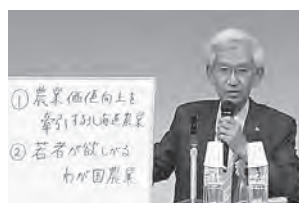
将来的には世界的な食料危機がささやかれ始めており、今こそ農業の重要性の国民的な理解が必要。政治や、幼少教育の場などを通じて農業立国北海道が率先して理解活動を行っていくべき。この理解こそが正しい農業の普及につながる力にもなる。

北海道農業実現に向け国の制度づくりを

これからの農業政策において、国民に必要な基礎的な食料にあたる重要品目については、国が一定の自給力を確保するということを前提として、確たる生産目標と、その実現のための政策・制度を定める。そして、目標達成に協力する

優良な農家が安心して生活し、生産に励むことができるように守るべくところは守るなどして、生産環境を整備していく必要がある。

このような生産環境づくりの政策提言や生産活動の推進すなわち農業価値向上のけん引役として、北海道が産学官一体となって国を動かして実現を目指すべき。



これらが実現してこれまでの猫の目のように変わる対策型の政策ではなく不動の政策となれば、国民とりわけ農業者の望むところであって、「若者が欲しがる農業」として目指すところが明確になるので、将来に希望がもてる北海道農業が実現していくのではないかと信じている。行きつくところ、日本の農業は、北海道的な農業に変わっていくべき。それが、世界の常識的な農業の姿。

積極的に中央に出ていき、国の制度作りに参加する。北

海道農業に近い制度をつくるようにもっていく。それには農業者だけでなく、北海道大学にも担ってもらおう。また、例えば農業に経済的なセンスを入れるときも、経済家ではなく、農業経済は農家がやるよう北海道大学に力になってもらう。農業経済は農家に任せておけというくらい、農業者は日本経済全体にも関わっていく力を持つべきで、農業の専業地帯である北海道から発信するのが産学連携の形である。

そろそろ日本の農業構造を変えるべき時に来ている。やはり、北海道から発信していくのが一番素直な姿であり、スタートポイントになって欲しい。

最後に一言

力強い農業が今回の大会の基本目標になっている。

そのためには生産、加工、流通、販売、それぞれがこれからの農業には特に科学的に、そして経済学的にも世界の最先端、高度化を図って日本の農業をリードする、そんな北海道農業になって頂きたい。

農林水産省からのお知らせ

あなたの飼養管理に関する疑問に、乳用牛ベストパフォーマンス実現会議がお答えします!!

乳房炎の発生防止

⇒ 体細胞スコアや乳汁検査による乳房炎の早期発見に努めていますか？

受胎率の向上

⇒ 繁殖台帳等の記録を活用した上での発情発見ができていますか？

分娩事故の発生防止

⇒ 泌乳準備中の牛としての乾乳牛の管理ができていますか？

代謝異常を起こしにくい飼料設計

⇒ 飼料馴致を行い、エネルギー不足を避ける管理ができていますか？

遺伝的能力の向上

⇒ 牛群の欠点を補う形質を持った種雄牛精液の利用ができていますか？

掲載内容の例

供用期間の延長による効果

経産牛50頭の酪農経営

除籍産次	うち初産牛
3.5産	14頭
4.0産	12頭

平均除籍産次の延長の効果は、

- 初妊牛の頭数減少(=乳牛償却費の低減)
- 牛群内における乳量の高い3～4産の飼養頭数割合の高まり
- 後継牛の必要頭数が減少することから、和子牛や交雑種子牛の生産増加による収入向上

現場で強調される「基本の励行」
のためのポイントとその効果を取り
まとめました!!

【資料の掲載はコチラ】

農林水産省、中央酪農会議、家畜改良事業団、中央畜産会の以下のページに掲載していますので、ご活用下さい。

http://www.maff.go.jp/j/chikusan/sinko/lin/l_katiku/pdf/h27_bp_pamph_zentai.pdf

<http://www.dairy.co.jp/news/bp-pamphlet.pdf>

http://liaj.lin.gr.jp/japanese/kentei/h27_bp/h27-bp-info.html

<http://jlia.lin.gr.jp/archives/693>

※ 乳用牛ベストパフォーマンス実現会議とは、現在飼養されている乳用牛の泌乳能力を最大限に発揮(ベストパフォーマンス)させていくため、乳用牛の飼養管理について造詣の深い有識者の方々により構成された、国及び畜産関係団体が事務局となった会議です。



理 事 会 報 告

12月定例理事会 平成27年12月22日(火)

報告事項

1. 専決事項及び諸会議について
2. 各委員会・諸会議等について
3. 11月末財務状況について
4. 事業の実施処理状況について
5. 盗難カードによる被害額の補償について
6. 内部審査の結果について

付議事項

- 議案第1号 J A全国監査機構期中監査の結果について
- 議案第2号 平成27年度(第3四半期)にかかる監事監査の結果について

- 議案第3号 融資の承認について
- 議案第4号 営農計画樹立基本方針の設定について
- 議案第5号 特定組合員に係る特別運用基準の対象組合員について
- 議案第6号 理事と組合との契約承認について
- 議案第7号 固定資産の取得について
- 議案第8号 特定個人情報取扱規程の制定について
- 議案第9号 諸規程等の一部変更について
- ※以上全件原案通り承認されました。

その他協議事項

1. 当面の業務日程について

1月定例理事会 平成28年1月28日(木)

報告事項

1. 専決事項及び諸会議について
2. 各委員会・諸会議等について
3. 12月末財務状況について
4. 事業の実施処理状況について
5. 平成27年度決算見込みについて
6. 事務受委託契約締結組織の無通告監査の報告について

付議事項

- 議案第1号 営農振興資金の貸付について
- 議案第2号 融資の承認について
- 議案第3号 搾乳素牛増頭対策事業要領の制定について

- 議案第4号 大学と農協との産学連携協力に関する協定書の締結について
- 議案第5号 役員推薦会議運営要領の一部変更について
- 議案第6号 役員選任実施要領の一部変更について
- 議案第7号 役員の任期満了にともなう役員選任実施事項について
- 議案第8号 固定資産の取得について
- 議案第9号 固定資産の修繕について
- ※以上全件原案通り承認されました。

その他協議事項

1. 組合員の農業に係る現況照会について
2. 当面の業務日程について

■平成27年度 生乳生産実績(12月)

	月計乳量(kg)	12月前年比(%)	累計乳量(kg)	累計前年比(%)
釧路丹頂農協	8,694,432.5	105.6	76,320,159.7	104.0
(鶴居地区)	2,928,230.9	106.0	26,132,209.4	105.9
(幌呂地区)	2,309,914.4	107.8	19,943,213.0	102.6
(白糖地区)	1,831,739.2	102.0	16,089,386.5	103.4
(音別地区)	1,624,548.0	106.0	14,155,350.8	103.4
管内計	44,868,655.5	104.2	399,703,254.9	102.4
(前年度管内計)	43,077,290.6		390,239,022.1	

■平成27年度 生乳生産実績(1月)

	月計乳量(kg)	1月前年比(%)	累計乳量(kg)	累計前年比(%)
釧路丹頂農協	8,790,788.0	104.6	85,110,947.7	104.1
(鶴居地区)	2,937,462.5	103.6	29,069,671.9	105.7
(幌呂地区)	2,358,074.1	108.3	22,301,287.1	103.1
(白糖地区)	1,841,621.9	99.7	17,931,008.4	103.0
(音別地区)	1,653,629.5	106.9	15,808,980.3	103.8
管内計	45,424,997.0	102.6	445,128,251.9	102.4
(前年度管内計)	44,259,126.8		434,498,148.9	

大変お世話になりました。
1月31日をもって退職しました。

小林 和 幸
田 中 英 靖

音別支所 乳牛検定事業担当事務局長
営農部 営農課哺育育成センター係長

編集後記
EDITOR'S NOTE

□韓国や中国などでは、口蹄疫や鳥インフルエンザの発生が現在も続いております。他国の事ではありますが、自分達で日頃から出来る衛生習慣の維持及び防疫対策の徹底に努めて参りましょう。

普及センターだより

釧路農業改良普及センター 釧路中西部支所

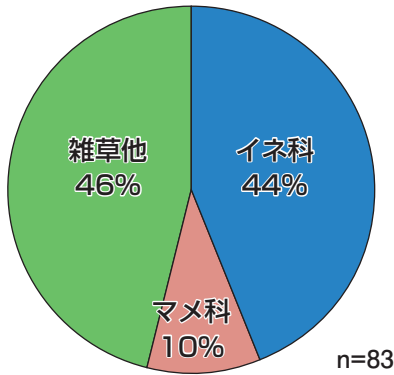


図1 A地区植生調査結果

乳牛改良が進む中、一頭当たり乳量は徐々に向上しています。しかし、牧草の栄養価は、向上していないのが実態です。最近の飼料分析値から、イネ科主体の一番草は、粗繊維含量が高く粗蛋白質が10%以下の低いサンプルが多く見受けられます。

A地区で実施した植生調査(図1)からは、雑草が多く、マメ科牧草は10%程度と少ない実態が分かります。乳牛の栄養を補うために良質の蛋白質、ミネラルを含むマメ科牧草(表1)を見直して見ませんか？

蛋白の自給に向けて
マメ科牧草の活用で
栄養価を改善しよう



写真1 赤クローバ品種展示ほ

●越冬性に優れ、土壌環境を選ばずに栽培でき嗜好性に優れます。(写真1)

●永続性は短く三〜四年程度で、利用年限が短いのが欠点です。

また、一番草刈り後の再生力がチモシーよりも旺盛で、気象条件等によってはチモシーを抑圧し、優占することもあります。

マメ科牧草の種類と特徴

表1 草種毎の成分の違い

草種	%	粗蛋白	Ca	NDF
チモシー	8	0.3	67	
アルファルファ	19	1.1	58	
ガレガ	13	1	56	

*H25年6月17日刈取り
(中西部支所展示ほデータより)

●アルファルファ

●近年土壌凍結に強い品種が出たことから栽培面積も増加しています。アルカリ性のやや乾燥した土壌を好み、直根で土壌深くまで根が入り物理性の改善が期待できます。

また、干ばつに強いので播種量が多いとチモシーを抑圧することもあり、注意が必要です。(写真3)



写真2 白クローバ品種展示ほ

●白クローバ

●多少の不良環境でも生育しやすいため、北海道において最も多く利用されています。白クローバは採草、放牧と用途が広く利用されています。(写真2)

●シロクローバの茎は地面に接して伸びるランナーで広がります。草地にできる裸地をうめて雑草の侵入を防ぐ効果もあります。



写真4 ガレガの開花の様子

最後に
草種の特徴を理解し、更新や追播に活用してみませんか？
(平成二十七年十二月作成)

●ガレガ

●発芽定着が難しい草種ですが、地下茎で増え、永続性他、多くの魅力ある特性を備えている。栄養価の低下が緩慢で倒伏しにくいなどの特徴があります。(写真4)



写真3 注目されるアルファルファ